

平成24年度臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：小児歯科

研究期間：平成24年4月～12月

研究課題名：感染性心内膜炎リスク対象者の保有する口腔レンサ球菌における抗生物質感受性に対する研究

研究課題の概要及び成果：

感染性心内膜炎は歯科領域で最も知られている全身疾患である。ある種の先天性心疾患を有する患者において抜歯等の観血的な歯科処置を行う場合、心内膜炎発症のリスクがあることから、抗生物質による術前投与を行うように推奨されている。一般的には、アモキシシリンの経口投与が行われているが、日本人の約5%の口腔内に高度の耐性菌が存在していることをこれまでに示した。本研究では、感染性心内膜炎のリスクとされる心疾患を有する対象のデンタルプラークサンプルにおけるアモキシシリン耐性菌の存在に関して分析することとした。まず、当科を定期検診のため受診した患者の中で、心内膜炎のリスクとされる心疾患を有する者のうち研究協力に同意が得られた対象者からデンタルプラークを採取した。段階希釈した溶液をアモキシシリン含有の培地に播種し、最小発育阻止濃度が16 µg/mL以上のレンサ球菌株を分離した。また、アモキシシリン耐性菌が分離された対象者からは、次の定期検診来院時にもサンプルを採取し分析を行った。その結果、約20%の対象者の口腔にアモキシシリン耐性菌が存在していることが示された。一方で、アモキシシリン耐性菌が分離された対象者でも、数ヶ月後に連続して分離される頻度は極めて低かった。また、アモキシシリン耐性菌は、他の抗生物質に対する耐性も有することも示された。以上のことから、心内膜炎発症のリスクとなる心疾患を有する患者では、アモキシシリン耐性菌が非リスク者よりも高頻度で検出される傾向にあるが、多くは一過性であり口腔に定着していない可能性が示された。さらに、これらの菌株に対しては、感受性のある抗生物質を検討する必要性が示唆された。

上記概要・成果に関連する図表等

